

## 第7回九州在宅医療推進フォーラム in 沖縄宮古島報告

管理者代表 訪問看護ステーション清雅苑 木村浩美

日時 平成28年10月29日(土)～10月30日(日)

場所 マティダ市民劇場

参加者数: 述べ500人弱

### <29日 九州在宅医療推進フォーラム プレフォーラム>

「小さな島の話を楽しもう」 田中美紀 氏

1) 百島診療所の挑戦「最後まで百島で暮らしたい」島民の願を叶える為に 美底恭子 氏

広島県尾道市の瀬戸内海の離島「百島」に神奈川県から移住したスタッフで百島診療所を開設する。人口は500人程で高齢者比率は65歳以上が70%弱で、独居が多く近くに親類がいない方がほとんどである。デイサービス1軒とヘルパー2名の限られた支援体制の中24時間支える医療を実践する。島の経営は経営上大変であり、近隣の2島へも船で訪問診療に出かけている。現在、宿泊可能な施設を含めたスーパー診療所構想を検討中

2) 地域の一住民としての看護活動

波照間島は日本最南端の有人離島で、人口530人。県立病院附属の診療所があり看護師が赴任している。こどもから高齢者までの健康・疾病、看取りに関わり、診療所という枠にとらわれず生活者として実践できる。隣接する高齢者介護事業所や保健師とともに住民活動の認知症キャラバンメイト(小学生から)の育成や他の島への民泊体験事業に参加支援している。

3) たとえ働けなくなっても、寝たきりになっても、島がいい。あの世への旅立ちは、住み慣れた我が家の畳から 坂東瑠美 氏

池間島は宮古島の北西にあり、池間大橋が開通し昼夜を問わず医療体制が充実したかに思いましたが、島在所の診療所や保健師駐在所等が閉鎖となった。人口は650人で2人に1人が高齢者である。お互いが支え合うを守るため「小規模多機能型居宅介護支援事業所 きゅ〜ぬふから舎」を開設した。そこで、22名をお見送りした。

### <30日 九州在宅医療推進フォーラム特別講演>

「終末期医療の現場から～欧米に寝たきり老人はいない」

1) 江別すずらん病院 認知症疾患医療センター長 宮本礼子先生

日本では高齢者が終末期に食べれなくなると人工栄養が行われる。それは、日本の医療で延命が行われる理由にある。①延命至上主義②本人の意思が不明③法的責任追及の恐れ④社会制度の問題(診療報酬・年金)⑤倫理観の欠如⑥終末期判断の難しさ⑦終末期医療が確立されていない 等である。末梢静脈栄養の功罪「功」・2～3ヶ月延命できる・医療者の罪悪感が無くなる「罪」・不自然に痩せて褥瘡ができる・針を刺す痛みがある・つらい期間が延びる・死ぬときに話ができない 痰吸引は苦しくこのような最後を誰も望んではいません。

ある高齢者が娘に伝えた言葉「もし迷ったら、あなたがして欲しくないことは私にもしないで！」があります。とてもストレートな意思表示です。

2) 北海道中央労災病院 院長 宮本顕二先生

欧米豪では高齢者は食べれなくても点滴や経管栄養は行いません。食べるだけ、飲むだけで2週間ほどで穏やかに最後を迎えます。日本の常識は世界の非常識なのです。

ハリソン内科学からの引用 「死期が迫っているから食べないのであり、末期の段階で食べないことが苦痛や死の原因になるわけだはない」「すべての治療は利益と不利益を持っており、個々の患者にとり負担が利益を上回る時は、どのような治療も行うべきでない」

### スウェーデンの高齢者終末期医療の紹介

- ・緩和医療のみ行う(鎮痛剤、解熱剤、精神安定剤 使用)
- ・行わない医療(抗生剤、昇圧剤、利尿剤、血圧・尿の測定、点滴・経管栄養、血液透析、人工呼吸器装着)

「死の教育」の重要性:医学教育～死の質を問う教育、一般:孫やひ孫に安らかな死を見せる

### シンポジウム 「九州各地の取り組み」

#### 1.鹿児島 ナカノ在宅医療クリニック 中野一司医師

ケアタウン・ナカノ構想①～②へ

キュア概念とケア概念を提供し、ケア志向の在宅医療を推進する

#### 2.長崎 長崎大学 三串伸哉歯科医師

平成27年度から訪問歯科診療を開始した。歯科と医科(耳鼻科)が連携し、地域で嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査)を提供する。検査のは家族以外に多職種との立会いも要請し、嚥下状態を理解し食形態や介助方法の検討を行う。

#### 3.大分 鶴岡クリニック 森崎重規歯科医師

訪問歯科診療 月に50～60件 歯科メーカーの診療機器開発により虫歯の治療も可能となった。食事には「病態や低栄養状態を改善するレベル」から「味わうだけ。楽しみレベル」があり「食を感じる」ことを禁忌とする方はいないはずである。

#### 4.熊本 田島医院 田島和周医師

二度にわたる熊本地震を経験し、状況を報告する。

#### 5.福岡 みどりの杜病院 原田 勝医師

地域にはがん拠点病院の公立八女総合病院があり、30床の完全独立型ホスピス病院として開設した。公立病院の非常勤として緩和外来や訪問診療に従事する。

#### 6.宮崎 訪問看護ステーションらふたーらいふ 岩田勝利 氏

多職種間の連携・情報交換を目的に「宮崎キュアケアネットワーク」を平成21年に設立し活動している。年1回の多職種交流会開催 平成28年度は、「地域包括システムを実践していくために」で開催した。

#### 7.沖縄 まちなと内科在宅クリニック 大濱 篤医師

市民の平均年齢が39歳という若い方が住む町ですが、近隣は高齢化が迫っている。

1市1医師会の機能を発揮し、在宅医療や介護連携推進事業に取り組んでいる。

#### 8.佐賀 矢ヶ部医院 在宅ネット・さが 矢ヶ部伸也医師

在宅死率が最も低い県の一つである。病床数が多い事、家族に迷惑をかけたくないと思いが多いことが原因と考える。2010年から「在宅ネット・さが」を立ち上げ多職種で在宅医療推進の活動を行っている。